

阿讃山地開発地域

---

土地分類基本調査

---

池 田

5万分の1

国 土 調 査

香 川 県 徳 島 県

1 9 7 2

## 序 文

昭和44年5月策定された新全国総合開発計画においては、人間と自然との調和をはかりながら、国土を有効に活用し、開発可能性を全国に拡大せしめ地域の特性に応じた開発を推進するとともに国民生活の社会環境を整備保全するなど基本的目標がうたわれている。

開発地域土地分類調査は、このような新たな観点から、開発プロジェクト単位に地形、表層地質、土壌等により基礎的条件を科学的かつ総合的にその実態をは握し、この調査結果にもとづき地域の特性に応じた開発をするための基礎調査である。

調査は、国土調査として指定をうけ（昭和46年8月10日）経済企画庁の開発地域土地分類基本調査費の補助により香川県区域は香川県が徳島県区域は徳島県が主体となって国土調査法土地分類基本調査の各作業準則に準拠作成した「香川県及び徳島県阿讃地域開発地域土地分類基本調査作業規定」に基づき実施した。

なお調査の成果については、開発地域土地分類実施大綱において地形分類図、表層地質図、土壌図の本図と傾斜区分図、水系谷密度図の計5図葉を必須とし、利水現況図、防災図、土壌生産力区分図、開発規制図、起伏量（標高区分図）土地利用現況図の各図については、必要に応じ選択作成するよう規定されており、本図幅の場合は、標高区分図、防災図を選択し作成した。

香川県側の各調査にあたっては、地形調査と開発関連調査の傾斜区分図、標高区分図、水系谷密度図ならびに防災図の一部を香川大学教育学部文部教官高桑糺、表層地質調査は香川大学農学部文部教官齋藤実、土壌調査は林野土壌を農林省林業試験場四国支場、農地土壌を香川県農業試験場徳島県側の各調査にあたっては地形調査と開発関連調査の傾斜区分図、標高区分図、水系谷密度図ならびに防災図の一部を阿南工業高等専門学校文部教官寺戸恒夫、徳島大学教育学部文部教官阿子島功京都大学防災研究所文部教官古谷尊彦、土壌調査は林野土壌を徳島県林業試験場、農地土壌を徳島県農業試験場、その他開発関連調査については両県関係各課のご協力を得て、香川県企画部総合開発班および徳島県農林水産部農林企画課で調査並びにとりまとめを実施した。

また、本調査の企画、調整については、経済企画庁総合開発局国土調査課のご指導、助言をいただいたもので、上記関係された方々に対して深く謝意を表する次第である。

昭和47年3月

# 総論

# 目 次

## 序 文

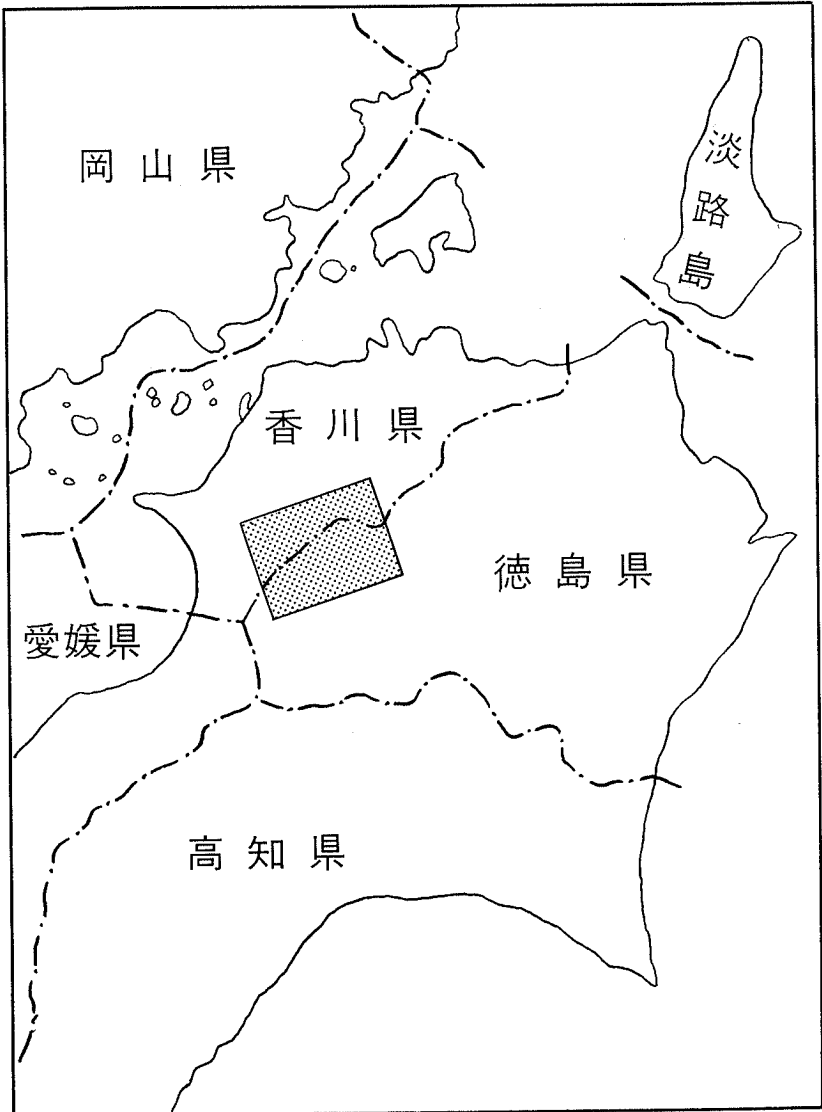
## 総 論

I 位置および行政区画 .....	1
II 地域の特性 .....	2
1 自然的条件 .....	2
2 社会経済的条件 .....	4
3 土地利用の概況 .....	6
III 主要産業の概要 .....	8
IV 開発の現状と方向 .....	10

## 各 論

I 地形分類 .....	13
1 地域概況 .....	13
2 地形各論 .....	13
II 表層地質 .....	18
III 土 壤 .....	22
1 山地および丘陵地の土壌 .....	22
1-1 概 説 .....	22
1-2 各 論 .....	23
2 台地および低地の土壌 .....	26
2-1 概 説 .....	26
2-2 各 論 .....	27
2-3 土地利用 .....	31
IV 傾斜区分 .....	32
V 水系谷密度 .....	34
VI 防 災 .....	35
VII 標高区分 .....	37

位 置 図



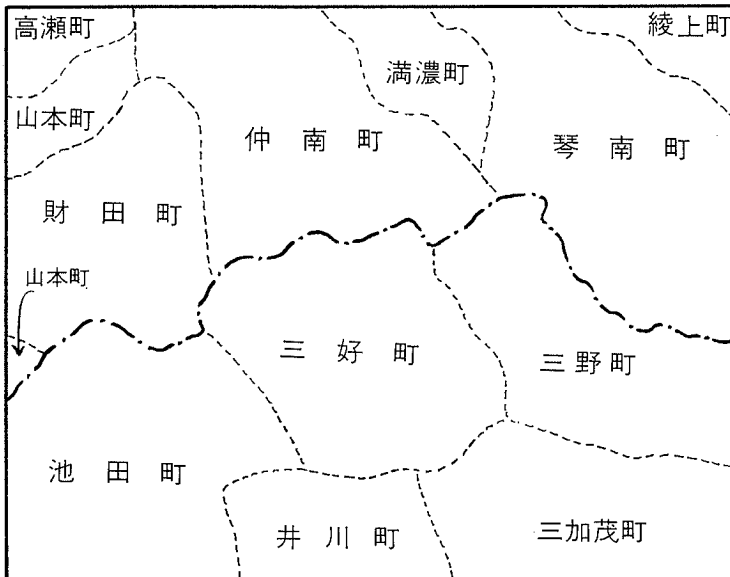
## I 位置および行政区画

位置：「池田」図幅は、阿讃山脈を境に香川県と徳島県に属し、面積もほぼ相半している。

図郭辺の経緯度は東経 $133^{\circ}45' \sim 134^{\circ}$  北緯 $34^{\circ} \sim 34^{\circ}10'$  であって図幅内の実面積は $410.98 \text{ km}^2$ である。

行政区画： 図幅内の行政区画は図1に示す通り、香川県区域には、綾歌郡綾上町、仲多度郡琴南町、満濃町、仲南町、三豊郡高瀬町、山本町、財田町、徳島県区域には三好郡三野町、三好町、池田町、井川町、三加茂町の12町からなる。

### 行政区画



第1表 図幅内町別面積

県名	町別 区分	図幅内面積		町面積 B (km <sup>2</sup> )	A/B×100 (%)
		実数A (km <sup>2</sup> )	構成 (%)		
香川 県	綾歌郡綾上町	9.53	2.3	71.37	13.4
	仲多度郡琴南町	56.50	13.7	83.24	67.9
	〃 満濃町	13.60	3.3	53.63	25.4
	〃 仲南町	54.70	13.3	58.77	93.1
	三豊郡高瀬町	8.10	2.0	56.29	14.4
	〃 山本町	12.40	3.0	33.20	37.4
	〃 賤田町	45.43	11.0	47.24	96.2
徳島 県	三好郡三野町	43.14	10.5	43.33	99.6
	〃 三好町	54.46	13.3	54.46	100.0
	〃 池田町	52.45	12.8	167.79	31.3
	〃 井川町	21.16	5.2	43.88	48.2
	〃 三加茂町	39.51	9.6	68.09	58.0
	計	410.98	100.0	781.29	52.6

資料：建設省国土地理院調(45.10.1)

## II 地域の特性

### 1 自然条件

#### ア 気象条件

本図幅内の地域は香川県域では南部高冷地であり、その条件はやや冷涼多雨の気候区に属し東南部琴南町に気象観測所があるがその観測所の気象観測によると昭和44年では年平均気温13.8℃年降水量1,333mmとなっており、平均気温では県平均気温を下廻り、降水量では、県内観測地点(16地点)中最も多くなっている。

また徳島県域では県西部にあり、その条件はやや冷涼少雨の気候区に属し池田町に気象観

測所があるがその観測所の気象観測によると昭和45年では年平均気温14.4℃年降水量1,748mmとなっており平均気温では県平均気温を下廻り、降水量では県内観測地点(19地点)中4番目の少降水量となっている。

降雪初日は12月3日で終日は3月19日であり年間12日の降雪をみた。

第2表の1 琴南町内観測所における気象(単位:温度℃降水量mm)

(昭和44年)

区分 \ 月別	年平均 合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
月別最高気温	18.9	7.8	7.8	10.2	19.4	23.9	25.2	29.2	31.8	27.8	20.7	14.5	8.9
月別最低気温	8.6	0.0	0.6	0.7	6.3	10.8	13.7	19.5	20.3	17.8	9.4	4.3	0.1
月別平均気温	13.8	3.9	4.2	5.5	12.9	17.3	19.5	24.4	26.1	22.8	15.1	9.5	4.6
月別降水量	1,333	96	95	138	72	111	227	257	162	50	37	50	38

資料 香川統計年鑑

第2表の2 池田町内観測所における気象(単位:温度℃降水量mm)

(昭和45年)

区分 \ 月別	年平均 合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
月別最高気温	19.1	7.7	10.5	9.8	17.3	23.5	23.6	30.5	31.3	28.5	21.4	15.5	9.9
月別最低気温	9.7	-1.7	-0.2	0.2	7.8	12.1	16.4	20.9	21.7	19.9	12.2	5.4	1.4
月別平均気温	14.4	3.0	5.2	5.0	12.5	17.8	20.0	25.7	26.5	24.2	16.8	10.5	5.7
月別降水量	1,748	80	34	70	186	161	261	134	371	163	107	99	82

資料 徳島県気象年報

#### イ 土地条件

本図幅内には中央に徳島県と香川県を境する阿讃山地が東西に連なり、その北麓には低平な丘陵地が、その南麓には吉野川の平野が、開け図幅南縁は四国山地北斜面となっている。阿讃山地は和泉層群よりなり、大川山(1,043m)を最高点とし、高度700~900mの山稜が連なる。山地斜面は急峻で山頂山腹の緩傾斜地に点々と集落が分布する以外は林地となっている。





## イ 人口等の動き

本図幅内における人口の推移を見ると昭和35年から10ヶ年の間に16.6%減少している。人口密度においては地域全体で126.2人/ $km^2$ となっており香川県平均500人徳島県平均190人でいづれも県平均を下廻っており、中でも仲南町・琴南町では100人/ $km^2$ を下廻っている。

(第3表)

本図幅内における農業就業人口の推移を見ると昭和35年から10ヶ年の間に約30%の減少となっている。

農業就業人口の減少率の最も大きいのは琴南町の約40%最も小さいのは財田町の約23%である。

(第4表)

第3表 関係町の人口の動き

(単位：人%)

年次 町別	35年	40年	45年	45/35	45/40	45年人口密度 (1 $km^2$ 当り人口)
高瀬町	19.025	17.545	16.876	88.7	96.2	299.8
財田町	6.207	5.675	5.410	87.2	95.3	114.5
仲南町	6.473	6.105	5.422	83.8	88.8	92.3
満濃町	15.112	14.465	13.320	88.1	92.1	248.4
琴南町	6.302	5.610	4.932	78.3	87.9	59.3
三野町	7.097	6.274	5.694	80.2	90.8	131.4
三好町	8.323	7.365	6.312	75.8	85.7	115.9
池田町	28.403	26.362	23.578	83.0	89.4	140.5
井川町	9.257	8.158	7.186	77.6	88.1	163.8
三加茂町	12.077	11.183	9.864	81.7	88.2	144.9
計	118.276	108.742	98.594	83.4	90.7	126.2

資料 国勢調査

年次 町別	35年	40年	45年	45/35	45/40	45年 農業就業人口 全人口
高瀬町	6.605	5.787	5.011	75.9	86.6	29.7
財田町	2.427	2.126	1.874	77.2	88.1	34.6
仲南町	2.570	2.091	1.777	69.1	85.0	32.8
満濃町	5.869	4.642	3.926	66.9	84.6	29.5
琴南町	2.438	1.943	1.474	60.5	75.9	29.9
三野町	2.415	1.961	1.662	68.8	84.8	29.2
三好町	2.788	2.356	2.052	73.6	87.1	32.5
池田町	4.609	4.368	3.310	71.8	75.8	14.0
井川町	2.469	1.989	1.572	63.7	79.0	21.9
三加茂町	3.922	3.077	2.738	69.8	89.0	27.8
計	36.112	30.340	25.396	70.3	83.7	25.8

資料 香川統計年鑑 徳島国勢調査

### 3 土地利用の概況

本図幅内関係町の耕地率は全体では13.2%となっており高瀬町の34.7%が最も高く、池田町の6.1%が最も低くなっている。山林率では池田町の82.3%が最も高く高瀬町の29.7%が最も低くなっている。これらを勘案すると、本図幅内の開発可能地域は山間地域に多くあるものと推定される。(第5表)

本図幅内の水田率は満濃町の88.1%が最も高く井川町の23.0%が最も低くなっている。

本図幅内の樹園率は財田町の44.1%が最も高く、満濃町の5.5%が最も低くなっている。

第5表 土地利用の現況

(単位: ha)

町別	区分	総土地面積A	耕地計B	田 C	畑 D	樹園地E	山林 F
高瀬町		5.629	1.956	1.154	159	643	1.671
財田町		4.724	848	459	15	374	2.819
仲南町		5.877	772	495	48	229	3.464
満濃町		5.363	1.392	1.226	89	77	2.472
琴南町		8.324	550	280	199	71	5.863
三野町		4.333	608	223	195	190	2.842
三好町		5.446	596	253	241	102	4.199
池田町		16.779	1.029	243	532	254	13.813
井川町		4.388	416	96	276	44	3.424
三加茂町		6.809	746	317	267	162	5.152
計		67.672	8.913	4.746	2.021	2.146	45.719

資料: 農林業センサス・林業地域調査(国有林除く)

町別	區別	耕地率 B/A	水田率 C/B	樹園率 E/B	山林率 F/A
高瀬町		34.7	59.0	32.9	29.7
財田町		18.0	54.1	44.1	59.7
仲南町		13.1	64.1	29.7	58.9
満濃町		26.0	88.1	5.5	46.1
琴南町		6.6	50.9	12.9	70.4
三野町		14.0	36.6	31.2	65.5
三好町		10.9	42.4	17.1	77.1
池田町		6.1	23.6	24.6	82.3
井川町		9.4	23.0	10.5	78.0
三加茂町		10.9	42.4	21.7	75.6
計		13.2	53.2	24.1	67.6

### III 主要産業の概要

本図幅内の主要産業を就業構造から見ると、地域全体では第1次産業の全就業者に対する割合が47.9%となっており、続いて第3次産業の30.4%第2次産業の21.7%となっている。

関係町別では第1次産業就業者の全就業者に対する割合の最も高いのは、三好町の60.3%最も低いのは池田町の29.4%となっている。(第6表)。

第3次産業就業者の全就業者に対する割合を町別に見ると最も高いのが、池田町の45.0%最も低いのが琴南町の21.2%となっている。

第2次産業就業者の全就業者に対する割合を町別に見ると、池田町の25.6%が最も高く三野町の15.9%が最も低くなっている。

本図幅内の主要産業の中においては第1次産業特に農業の占める割合が最も高くなっている。

本図幅内の農業構造を農業粗生産額から見ると(第7表の)、畜産粗生産額の全農業粗生産額中に占めるウエイトが最も高く米・野菜・果樹がこれに続いている。町別の全農業粗生産額中に占める作目別粗生産額のウエイトについて特徴はあまり見られないが強いてあげれば三好町の畜産(54.3%)満濃町の米(41.4%)三野町の畜産(39.8%)等があげることができる。

第6表 就業構造 (45年)

区 町 分 別	就業人 口総数	第1次産業			第2次産業		第3次産業	
		就業人口	内農業就 業人口	第1次 人口 割合	就業人口	第2次 人口 割合	就業人口	第3次 人口 割合
高瀬町	9.853	5.023	5.011	51.0	1.951	19.8	2.879	29.2
財田町	3.236	1.883	1.874	58.2	636	19.6	717	22.2
仲南町	3.283	1.798	1.777	54.8	705	21.5	780	23.7
満濃町	7.843	3.958	3.926	50.5	1.789	22.8	2.096	26.7
琴南町	2.719	1.503	1.474	55.3	639	23.5	577	21.2
三野町	2.879	1.689	1.662	58.7	458	15.9	732	25.4
三好町	3.412	2.058	2.052	60.3	598	17.5	756	22.2
池田町	11.703	3.442	3.310	29.4	2.997	25.6	5.264	45.0
井川町	3.582	1.607	1.572	44.8	794	22.2	1.181	33.0
三加茂町	5.248	2.775	2.738	52.9	1.113	21.2	1.360	25.9
計	53.758	25.736	25.396	47.9	11.680	21.7	16.342	30.4

資料 香川統計年鑑  
徳島国勢調査

第7表 農業粗生産額

(単位：百万円%)

区 町 分 別	粗生 産額	耕 種				畜 産					
		計	うち米	うち果樹	うち野菜	計	うち乳牛	うち肉用牛	うち鶏	うち豚	
高瀬町	(100)	(67.8)	(26.9)	(10)	(11.9)	(32.0)	(5.7)	(4.1)	(13.9)	(8.3)	
財田町	2.710	1.837	729	272	323	867	155	110	377	225	
仲南町	(100)	(81.8)	(24)	(14.8)	(12.6)	(18.2)	(5.9)	(2.2)	(7.1)	(3.2)	
満濃町	(100)	(78.3)	(28.1)	(9.3)	(16.5)	(21.7)	(3.1)	(5.5)	(8.7)	(4.4)	
琴南町	953	746	268	89	157	207	30	52	83	42	
三野町	(100)	(82.8)	(41.4)	(3.3)	(10.7)	(17)	(5.1)	(2.2)	(2.6)	(7.1)	
三好町	1.784	1.477	739	59	190	304	91	39	44	127	
池田町	(100)	(90.5)	(28.8)	(5.3)	(18.5)	(8.8)	(2.3)	(5.1)	(0.8)	(0.6)	
井川町	525	475	151	28	97	46	12	27	4	3	
三加茂町	(100)	(43.8)	(13.9)	(3.3)	(6.8)	(39.8)	(5.3)	(3.8)	(24.0)	(6.7)	
計	808	354	112	27	55	322	43	31	194	54	
高瀬町	(100)	(38.1)	(13.6)	(1.4)	(5.9)	(54.3)	(10.5)	(6.3)	(30.4)	(7.1)	
財田町	974	371	132	14	57	529	102	62	296	69	
仲南町	(100)	(67.2)	(13.5)	(5.3)	(16.9)	(29.9)	(3.2)	(8.0)	(11.2)	(7.5)	
満濃町	775	521	105	41	131	232	25	62	87	58	
琴南町	(100)	(59.4)	(12.8)	(2.5)	(10.3)	(37.2)	(9.2)	(5.7)	(9.2)	(11.1)	
三野町	360	214	46	9	37	134	33	28	33	40	
三好町	(100)	(54.8)	(22.5)	(2.2)	(6.8)	(30.5)	(9.6)	(3.7)	(8.2)	(9.0)	
池田町	779	427	175	17	53	238	75	29	64	70	
井川町	三加茂町	779	427	175	17	53	238	75	29	64	70
計	(100)	(67.9)	(25.3)	(6.6)	(11.5)	(28.6)	(5.8)	(4.3)	(11.8)	(6.7)	
	10.691	7.259	2.703	707	1.229	3.065	624	463	1.258	720	

資料 農業所得統計

## VI 開発の現況と方向

「池田」図幅内の道路事情は地域の殆んどが山間地域に属していることから香川県域では図幅内を南北に走る道路はかなり整備されているが、東西の連絡道路の整備は十分とはいえない。

県全体の道路密度で比較すると平野部の67.3に対して南部阿讃地域内は26.3となっている。

阿讃山地農業開発の一貫として県全体で102km本図幅内では46.5kmの道路開発整備が計画されている。

また徳島県域では図幅内を東西（吉野川南北岸）に走る道路はかなり整備されているが南北に走る山地道路は十分整備がされていない。

今後吉野川南北岸を東西に走る道路の整備は2～3年後にまた山地を南北に走る道路の整備は昭和60年ごろまでに完成される予定である。

香川県において昭和44年度に取り纏めた「阿讃山地農業開発構想」によれば阿讃地域6.7万haの内約1万haの農業開発適地があり、本図幅内においては第8表のとおり図幅内面積の21.6%に当る3,860haの農業開発適地がある。

県においては農業開発の重点地区を阿讃山地におき国の援助を得つつ阿讃山地農業開発の60%を畜産、40%を野菜果樹等にあて、農業経営規模の拡大を図り、農業経営の安定に資する方針である。

徳島県において昭和44年度に調査した徳島県土地改良総合計画補足調査によれば第8表のとおり図幅内面積の4.8%に当る1,016haの農業開発適地があり昭和60年度までに完了の予定である。

第8表 図幅内農業開発適地

(単位：ha%)

区 分 別	図幅内土地 総面積 A	図幅内農業開 発適地面積 B	B / A	図幅内農業用開発面積の内訳		
				草 地	畑	樹園地
高瀬町	810					
財田町	4.550	740	16.3			740
仲南町	5.470	1.190	21.8	380		810
満濃町	1.360	480	35.3	420		60
琴南町	5.650	1.450	25.7	1.030	190	230
計	17.840	3.860	21.6	1.830	190	1.840
三野町	4.314	243	5.6	100		143
三好町	5.446	201	3.7	130	71	
池田町	5.245	525	10.0	400	27	98
井川町	2.116	27	1.3			27
三加茂町	3.951	20	0.5			20
計	21.072	1.016	4.8	630	98	288

資料 香川県阿讃山地開発構想

徳島県土地改良総合計画



# 各 論

## I 地形分類

### I.1 地域概況

本図幅中央を阿讃山地中西部主脈が東西に走り、これを香川・徳島両県の県境をなす分水界として、北は瀬戸内海へそそぐ綾川・土器川・金倉川・高瀬川・財田川などの上流流域、南は吉野川支流の流域となっている。

早壮年期末の山容を呈する阿讃山地の北には溶岩台地起源の開析のすすんだ中起伏山地、その山麓台の性質を持ち平坦面を残す山嘴状の山麓地、この地形の上を砂礫層が覆った上位台地、これらを掘り込んだ河谷平野とその沿岸にみられる狭い河岸段丘が分布する。阿讃山地の南には、中央構造線に沿う吉野川地溝谷をへだてて四国外帯山地である剣山山地の北縁部をなす大起伏の結晶片岩山地が分布する。吉野川河谷には、本流成および支川の吐き出す扇状地成の高中低位3群の台地・段丘が分布する。吉野川氾濫原平野は図幅東半部で広がる。

### I.2 地形各論

#### (1) 山地・丘陵地

阿讃山地は図幅のうちでは大川山(高度1043m)を最高点とし、これより高度700~800mの山嶺が連なる。山頂に平坦な部分を残す所があり、琴南町の前川・大左古、仲野などでは牧場としてこれを開発利用している。谷はV字谷を掘り込み、谷壁は急傾斜で谷床は狭く、河岸段丘の発達は貧弱である。地質は大部分が上部白亜系の和泉層群に属する礫岩・砂岩・頁岩の互層であるが、頁岩は他の岩石に比べ、風化・侵蝕に対する抵抗が弱く、差別侵蝕による地形がよく表れている。焼尾峠東南方の山腹は北西側が南東側よりも急傾斜であるが、これは山頂に近い部分が固い砂岩で地層の傾斜が南東へ傾いているからである。阿讃山地南斜面では、和泉層群の東へ開いた向斜構造を反映して、東へ凹の孤状をなす山稜・水系が特徴的であり、東へ傾く地質構造に沿って上述のケスタ状地形が発達している。

阿讃山地北麓、財田川南方の山腹には断層鞍部状の地形が並んでおり東西方向の断層の存在を示している。満濃地南方の馬の谷では南側の和泉層群の礫岩が山麓平坦面上の砂礫層を切って衝上し、60mほど高くこの礫層が変位している。久保でも和泉層群の頁岩が鮮新~洪積統の礫岩上に衝上する。

阿讃山地南麓は中央構造線に沿う、比高300mを越す急斜面によって吉野川谷と境され、山麓線は東西にはほぼ直線状をなし、急斜面下の新旧の扇状地面は東西性の数条の断層崖によ

て南北にくいちがいを生じ、各種の変位地形がみられる。

阿讃山地の北方には和泉層群の基盤である花崗岩類のわれ目から噴出した讃岐岩類が溶岩原をつくり、これが地盤の隆起によって開析され台状ないし孤立丘となった地形がある。竜王山(421m)付近の山地群、図幅の西北隅にある傾山(287m)などはその例である。

中央構造線に沿う吉野川谷・馬路川谷の南方には結晶片岩よりなる高度900m~500mの山が連なり、四国山地の北斜面を構成している。水系は南北性のものが深い谷を刻み、山腹斜面を刻むものはよく分枝しているが浅く、山腹斜面は平板的である。モザイク状をなす山麓線は東西・南北2成分が明瞭であるが、東西に良く連続する急斜面に沿って断層は、池田付近を除いては確かめられていない。

山頂・山腹緩斜面は、写真判読のうえ、1/25,000地形図によって最大傾斜が原則的に15°以下の部分をぬき出したものであり、地送り地内の小平坦地もふくまれる。また、崩壊性地送り地内の小平坦地で規模の小なるものは崩壊性斜面内に一括図示した。なお、池田町イケミナミ~イタノ間の地塊は、吉野川北岸よりもたらされた地送り性地塊とされた(岡田1968)が、和泉層群の南限にあたる基岩である。

#### 文献(一部)

岡田篤正(1968):阿波池田付近の中央構造線の新时期断層運動、第四紀研究,V.7,P.15~P.26

須鎗和巳(1971):吉野川北岸の第四系とその運動、第四紀,V.17,P.31~37

## (2) 山麓地・台地

### 香川県域の山麓地・上位台地

山麓地は山地に接し、山地とは傾斜急変線で境され、山麓に連続して展開する。かなり開析の進んだ緩傾斜面で、遠望するときわめて平坦だが近接して見ると谷に刻まれた小起伏面あるいは山嘴である。

この地形の上に砂礫層が残存している場合は上位台地とした。

山地と山麓地、上位台地との境界は土器川東岸の猪ノ鼻付近で海拔400m、西岸の転石付近で340m、満濃地南方の五毛付近で約300m、財田川南岸の久保、山脇付近でも300m、猪ノ鼻峠に近い若狭峰北麓で300~240m、中蓮寺峰や六地藏越北方で200mくらいである。また、財田川北方の帆山、後山、大口付近から竜王山の山麓一帯ではほぼ200m等高線付近にある。

図の東北隅にある土器川と綾川の分水界に相当する焼尾峠付近には南から頁岩、礫岩・砂岩・礫岩・花崗岩を切つてこの地形面があり、比高約10mの小残丘状の地形も散在している。砂礫層は川東の山嘴上、海拔380mの地点で厚さ4.5m、下は頁岩の基盤である。礫はすべて和

泉層群起原の砂岩礫で最大径は100cm, 50～60cmの粒が多い亜円～亜角礫である。点線路の所では礫の最大が40cmくらいで20～30cmの粒が多くなり、この東北方の点線路と実線路の三叉路では礫層の厚さが28mに達している。

土器川西岸には下木戸から満濃地南部の江畑・五毛・三田・春日にかけて海拔200mくらいの平坦面が発達し、その上に1段高く江畑の277高地, 春日北方の253,9高地, 247高地など花崗岩類の丘が残丘状にそびえている。この平坦面は花崗岩およびその間にある鮮新～洪積統の堆積物とその上を覆う砂岩・片岩・花崗岩類などの礫層の上を切っている。満濃池はこの花崗岩類の谷を埋めた堆積物が侵食されて2次的に形成された谷の中に作られている。池の南方では鮮新世の泥岩や花崗岩がこの地形面を構成するが1部に粒の細かい砂岩・花崗岩・片岩の円礫が薄く残存している。

財田川南岸にもこのような山麓地と上位台地があり、久保付近では比高31mの河岸に鮮新～洪積統の礫層が露出している。礫は砂岩の他に花崗岩・片岩の小円礫も多く含まれる。新目付近でもこのような礫層が見られるが、財田上から財田中付近の上位台地にも砂岩を主とし花崗岩・片岩・安山岩などの礫を含む砂礫層が露出している。財田中北方の財田川以北にある海拔100m～200mの山麓地は花崗岩で構成され、諸所に花崗岩質の小円礫を含む砂礫層はあるが砂岩の礫を含む礫層はない。

#### 香川県域の下位台地

財田川中流南岸の石野・灰倉付近には南側の支谷から押し出した扇状地礫層から成り下位台地に相当する段丘が発達し、礫層の厚さが30mに達する所もある。石野では段丘岸の比高18m, 海拔高度は100～120m, 和泉層群起原の円礫ないし亜円礫で最大粒径70cmの礫層から成っている。北岸の我久付近にも海拔90mにこの地形があり、10m以上の厚さを持ち、最大径30cmの和泉層群起原の砂岩質の亜円～亜角礫で覆われている。

また、上流の久保付近北岸には比高15mの段丘崖があり、小池から福良見へ続く谷は粒径1m以上に達する和泉層群の砂岩の大円礫を含む礫層で埋められており、その谷底は下位台地に相当し、以前この谷を財田川の上流部にあたる阿讃山地から北流した河川が流れていた。

#### 徳島県域の台地

いづれも吉野川本流の旧河床面および北・南流する諸支流の旧扇状地面である。台地面は、高度関係により上位・中位・低位・最下位の4群に分けられる。ほとんどが砂礫台地である。背後の急斜面よりもたらされた新期の崖錐が台地面をおおうところがある。これら台地面は中央構造線に沿う数条の断層線によって変位しており、また変位中・変位後に河流の作用を

うけているところがある。

下位面の形成時期はC<sup>14</sup>年代資料(岡田1968の池田下位面構成層直下の木材)が27.700±~23.600±年B. P.を示し、中位面構成層は下流ではやや風化し赤味を帯び、とくに厚く、温暖期かつ海進期の形成とされ、高位面構成層は風化著しく「クサリ礫」をとまなう。したがって下位面はパウドルフ間氷期に、中位面はゲトワイゲル間氷期に、高位面はリス・ウルム間氷期に対比される(須鎗1971)。最下位段丘面とは近年の洪水時にほとんど冠水しなかったものをいう。

上位面は高度200m前後(現河床との比高110m)で三繩(10m厚のクサリ礫層)、および河内谷川兩岸にあって東岸のものは山脚斜面をおおう崖錐性の著しく厚い礫層である。

中位面は白地・池田町西方(160m丘周辺)にて現河床との比高60m、昼間~行常~台に分布するものは高度180m前後、断層により断たれ、断層凹地もある。台付近にみられる構成物質のほとんどは断層破碎帯に由来する小角礫よりなる崖錐性のものであり、多くの小断層に切られ層理面が逆傾斜するところもある。変位により高度は高いが礫層は新しい。

下位面は広く分布するが、吉野川南岸では詳細には数段あるものを一括した。三繩にて現河床との比高30m。池田では断層により20~10mの落差を生じ、南が低い地溝を形成する。上位の面は岩石段丘面、下位の面(前述)は構成層が厚く10m、その下位にやや風化した厚さ10mの本流成細粒砂礫層がある。同様の露頭は三好大橋の南、バスセンター付近にもみられる。

吉野川北岸、池田より下流では(狭義の)中央構造線に沿って変位が著しい。西州津ではその落差10+m、鮎苦谷橋付近の地形面の変位は水平成分はあっても左横ずれの形をとっている。東州津では崖錐性扇状地を切る眉状断層崖がみられ落差5~8mとされる。行安付近に広がる足代扇状地は前述中位面の南をかぎる急斜面の延長上で落差10+mのくいちがいを生じている。河内谷川西岸では東西性・南北性の直状上小崖が旧扇状地面を断ち切っている。同東岸芝生では古期扇状地礫層を切る南北性断層露頭がある。

### (3) 低地

#### 香川県の低地

この地域の低地はすべて河谷平野である。和泉層群山地においては差別侵蝕地形が河谷の平面形にも現われている。図の東北部、琴南町中通付近の土器川本流の谷底が巾広いのは桜と下木戸の間の基盤が固い砂岩・礫岩、桜から南方の淵野までが頁岩で、下刻の速度に差が生じ、頁岩の部分の河床が1時的に勾配が緩やかとなり、局部的に側刻が盛んとなったため

谷巾が掘り掘げられたのである。

また、久保付近から下流の財田川本流の流れは鮮新～洪積統の堆積物が充填した谷巾を2次的に掘り込んでいる。雉子尾付近の河床には花崗岩が露出し、河崖の露出ではこの上に厚さ2m、粒径15cmくらいの花崗岩質の亜角礫層、その上に固結した青色粘土がある。砂古・中屋敷付近の河崖には固結した砂礫と青色粘土～砂の互層があり、礫には水磨された英雲安山岩の円礫が含まれている。また、大武連付近の谷では谷底に花崗岩が露出し、その上に安山岩の小礫を含む層理のあまり発達していない花崗岩質の砂・粘土の薄層がある。

### 徳島県域低地

吉野川は池田町より下流にて広い氾濫原を発達させる。最下位段丘面とほぼ似た地形を示すものでも近年の洪水時に一部でも侵水したところ（池田町西方板野では河床との比高5mに達する）は谷底面として図示した。

阿波加茂・中の庄・加茂野宮にかけて自然堤防、旧河道が読みとれる。現在、北村・江口の潜水橋付近、下加芳神社付近などで浸水が認められる。これらの地域には、条里制遺構とみられる地割をうけついでおり、古くから利用可能な土地であったことがうかがわれる。新时期扇状地の広いのは黒川原谷川下流の原、河内谷川下流芝生、滝川谷下流、加茂野宮、加茂谷川下流などである。辻の下流などでは河床に結晶片岩が露出する。

### 文献（一部）

岡田 篤正（1968）：阿波池田付近の中央構造線の新时期層運動、第四紀研究、P.15～P.26

須鎗 和巳（1971）：吉野川北岸の第四系とその運動、第四紀V.17、P.31-37

（香川県域 香川大学教育学部 高桑 糺）

（徳島県域 阿南工専 寺戸 恒夫）

京大防災研究所 古谷 尊彦）

徳島大学教育学部 阿子島 功）

## II 表層地質

### II.1 未固結堆積物

#### II.1.1 砂礫および粘土（沖積世）

各河川の谷底平野を形成するもので、主として砂礫よりなる。現河道堆積物と谷底はんらん堆積物よりなる。

#### II.1.2 碎屑物（洪積世?）

阿讃山地の山腹緩斜面には、砂岩、泥岩の角礫よりなる崖錐性碎屑物が分布している。厚さ数m以下で、かつての地汙りにより形成されたものと考えられる。

### II.2 半固結堆積物

#### II.2.1 粘土および砂礫（低位堆積物：洪積世）

阿讃山地北麓の標高120~80mの緩傾斜の堆積面をもつ扇状地性の堆積層（粘土まじり礫）、阿南村久保、小池、福良見付近の140~200mの平坦な堆積面をもつ段丘堆積層（主として礫まじり粘土）および各山麓に発達する古期の小扇状地堆積物を一括して低位堆積層とした。

#### II.2.2 砂礫および粘土（高位堆積層：洪積世）

阿讃山地北麓の標高150~300mの山麓面に発達するもので、いわゆる古期扇状地礫層である。径2~5cmから人頭大までに及ぶ淘汰のよくない砂岩、泥岩および花崗岩の亜円礫を主とする礫層で、砂質ないしシルトをマトリックスとして、灰黄色 黄褐色を呈する。礫は一般に風化が進んで、いわゆる“クサリ礫”となっているものが多くマトリックスも一部赤色土化している。厚さは20~40m前後、全体として割合しまっている。この礫層の上部即ち山側には、亜角礫ないし角礫を主とする雑然とした礫層が分布していることがある。これは土石流の堆積物であって時代的には新しいものであるが一括した。

#### II.2.3 砂礫（洪積世）

吉野川の北岸および南岸の台地に分布する洪積層で、4区分できる。

**低位段丘礫層 (g4) :** 結晶片岩の円礫を主とし、少量の砂岩礫を伴う礫層で、粗粒の砂により膠結されている。風化作用をほとんどうけておらず、礫は新鮮である。厚さ10m±。

**新期扇状地礫層 (g3) :** 和泉層群岩石の亜角礫~角礫よりなる礫層で、泥質の砂により膠結されている。崩積世の堆積物で、隆起扇状地を形成し、段丘状の地形を呈する。強い風化作用はうけておらず、砂岩礫は堅硬である。厚さ50m±。

**中位段丘礫層 (g2) :** 結晶片岩、砂岩の円礫よりなる礫層で、粗粒砂により膠結されている。

新期扇状地礫層に覆われており、段丘面はみられない。一部では風化作用をうけ、砂岩・緑色片岩が内部までくさり、5 Y Rの色相を呈する。厚さ30m以下。

**高位段丘礫層 (g1)**：吉野川北岸のものは、結晶片岩、砂岩の礫よりなり、粗粒砂により膠結されている。緑色片岩礫、砂岩礫は“クサリ礫”となっている。赤色土化作用をうけ、2.5 Y Rの土色を呈する。南岸の場合は、北岸に比べて、散点的ではあるが分布地点が多い。また、北岸と同様に“クサリ礫”となっていることが多い。マトリックスは粘土化が著しく、進んでおり、又緑色片岩礫、黒色片岩礫が風化してマトリックス化している部分もある。土色は、5 Y R以上で時には10Rに達することもある。

#### II. 2. 4 アルコーズ砂岩および泥岩 (三豊層群：新第三紀鮮新世)

阿讃山地の北麓および花崗岩山地の縁辺部に分布するもので、花崗岩および和泉層群を基盤として堆積した軟岩状の湖沼成堆積物である。青灰色ないしは暗灰色の泥岩およびシルト岩と、褐鉄鉱皮殻と高師小僧の多い小礫を含むアルコーズ砂岩とである。厚さは30~120m位である。一般に水平であるが、断層の近くでは20~30度の傾斜を示す。

#### II. 3 固結堆積物 (和泉層群：中生代白亜紀)

和泉層群は東西性の軸をもつ向斜を形成しており、褶曲軸は東へ向って沈降している。従って地層は西へ凸部をむけた孤状の配列を示している。阿讃山地の南縁には中央構造線が東西に走り、その南側には三波川結晶片岩が分布している。中央構造線の北側に接する和泉層群は著しく破碎されている。北縁の砂岩礫岩層、泥岩層以外は、典型的な乱泥流堆積物である。なお地質図には記入していないが、本層群中には灰緑色の珪質凝灰岩層を夾んでいる事が多い。

##### II. 3. 1 砂岩・礫岩 (ss & cg)

和泉層群の基底部に相当するもので、礫岩およびアルコーズ砂岩よりなる。礫岩は基底部に近い所では、花崗岩の垂角礫であるが、上位になるにつれて、垂内礫ないしは円礫状の石英斑岩、玢岩、流紋岩およびチャートなどの主として拳大の礫を含む。

##### II. 3. 2 砂岩がち砂岩泥岩互層 (ss)

砂岩の比率(厚さの)が60%以上の砂岩泥岩互層である。砂岩は厚いものは2~3mに達するが、数10cmのものが多い。泥岩は数cm~30cmのものが多い。砂岩は泥質のマトリックスが多い灰緑色のものである。分布の北東部では砂岩が礫質となり、礫岩交りの互層の部分がある。

##### II. 3. 3 砂岩泥岩互層 (alt)

砂岩の比率が40%~60%の互層である。砂岩層は厚いものは1mに達するが、20~40cmの



ものが多い。泥岩層は10~30cmのものが多い。

#### II. 3. 4 泥岩および泥岩がち砂岩泥岩互層 (ms)

砂岩の比率が40%以下の砂岩泥岩互層および泥岩層である。泥岩は北縁の砂岩・礫岩層上に重って東北東一西南西に帯状に分布している。黒灰色塊状で、風化すると不規則な楕円体にわれやすい。泥岩がち互層は、阿讃山地の中軸部および南縁に分布する。灰黒色泥岩と40cm以下(ときに1m前後)の砂岩層よりなる互層である。泥岩が風化し崩壊しやすいため、禿山となりやすく、流土地が見られる事が多い。

琴南町勝浦附近より三野町芝生北方にかけては、本層中に何枚もの珪質凝灰岩(厚さ20m±)を夾んでいる。

### II. 4. 火山性岩石

#### II. 4. 1 音地火山灰層(未固結)

いわゆる赤音地で、琴南町明神の神社の裏の崖でよくみられる。有色鉱物としては普通輝石と紫蘇輝石、磁鉄鉱および少量の角閃石がみられる。比重は2.4~2.5である。[その年代は愛媛県久万町のもを参考までにあげると、GaK-1643, 7,680±140(1968)]

#### II. 4. 2 古銅輝石安山岩(新第三紀中新世)

黒色ないしは暗灰色を呈し、緻密質で斑晶に乏しく、極めて堅硬である。風化すると淡赤紫色ないし赤褐色のシルト質粘土となる。斑晶は斜方輝石(古銅輝石)および斜長石を主とし、石基は微細な斜長石、斜方輝石、単斜輝石および磁鉄鉱などからなる。

#### II. 4. 3 凝灰角礫岩(新第三紀中新世)

満濃町北岡の西500mの国道沿いの崖に僅かにみられる。流紋岩、松指岩等の細角礫を含む灰白色の凝灰角礫岩で、層理は明瞭でない。

### II. 5 深成岩

#### II. 5. 1 花崗斑岩

花崗岩を貫いて岩脈状に分布するもので、一般に斑晶にとみ、灰白色を呈し、珪長質の硬い岩石である。斑晶は石英、正長石、斜長石および黒雲母からなる。貫入時期は中生代に属する。

#### II. 5. 2 花崗岩類

いわゆる領家花崗岩に属し、古生層に熱変成作用を及ぼしている。この岩石は、一般に灰白色を呈し、中粒ないし粗粒の完晶質の岩石で、優白色の黒雲母花崗岩から次第に漸移し、境界は判然としない。黒雲母花崗岩の主成分は、石英、正長石、斜長石および黒雲母からな

り、これに角閃石が加わり、次第にその量が増加し閃雲花崗岩から花崗閃緑岩となる。この地浅の花崗岩はマサ化が著しく、時によると山全体部がマサ状になっているものがある。併入時期は中生代(M)に属する。

### II.5.3 玢岩および変輝緑岩

仲南村樺木峠付近にみられる。岩脈状をなす。暗灰色ないし暗緑灰色を呈し、一般に斑晶の目立つ硬い岩石である。斑晶は斜長石、普通角閃石および黒雲母からなる。これらの内斑晶の乏しいものには変輝緑岩様を示す。貫入期は中生代(M)に属す。

## II.6 変成岩

### II.9.1 雲母片岩・ホルンフェルスおよび片麻岩

花崗岩類中に捕獲岩状に小岩体をなして、分布するもので、古生層が熱変成作用によって生成された、いわゆる領家変成岩に属する。これらの岩石は、一般に暗灰色を呈し、緻密質の硬い岩石で、著しい片理構造のみられる雲母片岩を主体とするが、その変成度の高低によって、ホルンフェルマあるいわ片麻岩となる。これは古生代(P)に属する。

### II.6.2 三波川帯の結晶片岩類

三波川帯の結晶片岩類は本地域では三繩層下部層に属する。地域の南部に若干の無点紋片岩岩層があるが、大部分は点紋片岩層である。点紋片岩層の岩石は、変成度が高く構成鉱物の粒径も粗粒(径 $0.2\text{mm}$ 以上)で、片理の発達は無点紋帯の岩石より弱い。ときに塊状のこともある。これに対して、無点紋帯の岩石は、構成鉱物の粒径は細粒(径 $0.02\text{mm}$ 以下)で片理の発達著しい。点紋体の塩基性片岩は風化し易く、深さ数  $m$  にわたって風化されていることがある。同帯の泥質片岩は、塩基性片岩より風化しにくい剥離性に富んでいるので、こまかく割れて鱗片状となる。

一般的に泥質片岩は土壌化して砂質土壌となり塩基性片岩は粘土質土壌となる。

地層の傾斜は北部で急で南部でゆるやかとなり、ひとつの向斜構造を造っている。

## 主要文献目録

1. 佐藤源郎 (1936)  $\frac{1}{75,000}$  地質図幅「丸亀」および同説明書, 地質調査所。
2. 中野光雄 (1953) 讃岐山脈中部の地質, 広島大学地学研報, 3号
3. 小島丈児, 秀敬, 吉野言生 (1956) 四国三波川帯におけるキースラガーの層序的位置, 地質雑, 62巻。
4. NAKAGWA, C. (1961), The upper Cretaceous Izumi Group in Shikoku, Jour. Gakugei, Tokushima Univ.

- 5 齊藤実ほか3名(1962), 香川県 $\frac{1}{20}$ 万地図および同説明書, 内場地下水工業K. K.
- 6 SAITO, M.(1962), The Geology of Kagawa and Northern Ehime Prefecture, Mem. Fac. Agr., Kagawa Univ., No.10.
- 7 Ernst, W.G. Seki, Y, Onuki, H. Gilbert, M.C.(1970) Comparative study of Low-grade metamorphism in the California Coast Range and the outer metamorphic belt of Japan, Geol. Soc. Am. Memoir 124.

(香川県域 香川大学農学部 齋藤 実)

(徳島県域 徳島大学教育学部 中川恵三)

( " " " 岩崎正夫)

( " 徳島大学教養部 須鎗和巳)

### III 土 壤

#### III. 1 山地・丘陵地地域の土壌

##### 1. 1 概 説

本図幅内の山地丘陵地は、全図幅面積の約8割を占め、中央部をほぼ東西に走る阿讃山脈で構成される中部山地と、この北麓に接して広がる北部丘陵地、および吉野川以南の南部山地の3域に大別される。

植生は全般にはアカマツを主とする2次植生であるが、海拔高の低い北部丘陵地では、アカマツを上木とし、下層にネズミサシ、ツクシアカツツジ、ナツハゼ、ヒサカキなど陽性かつ乾性の植生が発達する。また中部山地および南部山地では、アカマツ、コナラ、アセビ、ヒサカキなどを主とする植生が分布するが、北部丘陵地にくらべて落葉広葉樹の生育が旺盛で植生状態も発達していることがうかがえる。

山地、丘陵地の土壌は、そのほとんどが褐色森林土であるが、母材と地形に密接に関連して特徴のある形態を示している。花崗岩類を基盤とする北部丘陵地および中部山地の北縁に沿って広がる礫、砂、粘土の未固結または半固結堆積物からなる台地には、土壌生成が未熟で下層の土色が黄褐色を呈する土壌が広く分布する。この土壌は砂質で有機物の土層への侵入は極めて少なく、したがって断面における層位の分化ははなはだ不明りようである。全般的に乾性土壌の分布が広く、適潤な水分環境にある土壌は谷底などの極めて限られた範囲に限定される。

和泉層群の砂岩、頁岩を基盤とする中部山地およびその南麓をほぼ東西に走る中央構造線によって区切られた三波川層群の結晶片岩類からなる南部山地の土壤は、概して断面層序の発達はよくないが、北部丘陵地の土壤にくらべると層位の分化はかなり明りょうである。土壤は埴質で適潤性土壤の分布もやや広い。

また南部山地の北側の山麓斜面には、下層が赤褐色を呈する赤色土が小面積で点在している。

本図幅内の山地、丘陵地の土壤は上記のように褐色森林土と赤色土が認められるが、これらの土壤は断面形態、母材、堆積様式などにより次のとおり5土壤統群、16土壤統に細分した。

土壤群	土壤統群	土壤統
褐色森林土	乾性褐色森林土壤(黄褐色)	5統
	乾性褐色森林土壤	3統
	褐色森林土壤(黄褐色)	4統
	褐色森林土壤	3統
赤黄色土	赤色土壤	1統

## 1.2 各論

### 1. 乾性褐色森林土壤（黄褐色）

#### (1)千疋1統（Sen-1）

中央山地の北縁に広がる台地丘陵地を覆う土壤で礫、砂の未固結または半固結堆積物を母材とする。全土層は浅く未熟土的で A<sub>0</sub> 層は堆積するが腐植の土層への侵入は悪く、A層はきわめて薄い。土壤は砂質で堆積は堅密である。アカマツ、クロマツの天然林であるが成長は不良である。

#### (2)国分寺1統（Kob-1）

この土壤は北部丘陵地の花崗岩地帯に出現し、尾根筋および山腹斜面の大部分を占める。腐植の土層への侵入は悪く層位の分化は不明りょうで、未熟土的様相が強い。B層は黄褐色で母材の影響を反映して細礫に富み砂質で土壤層は比較的浅く深層風化を受けたC層に漸移する。アカマツを主とする天然林が多いが成長は悪く林床植生は含弱である。

#### (3)綾上1統（Aya-1）

北部の綾上町牛ノ子堂近辺の花崗岩地帯に出現し、尾根、山腹斜面に広く分布する土壤である。国分寺1統と類似した断面形態を示すが、表層に粗粒状または塊状構造の発達したA層が形成される。B層は黄褐色を呈し比較的堅密な堆積を示す。アカマツを主体とした天然林

または人工林であるが、アカマツの生育はよくない。

#### (4)菩提山1統 (Bod-1)

溝濃、賤田、琴南町の一部に出現し、尾根および山腹凸形斜面に分布する。和泉層群の砂岩、頁岩を母材とする土壤である。A層の形成は薄く淡色であるが粗粒状構造が発達し、また菌糸をともなう粉状構造がみられる場合もしばしばある。B層は黄褐色を呈し堅果状構造がよくみえる。

#### (5)昼間統 (Hir)

和泉層群の砂岩、頁岩を基盤とする中部山地の南麓に分布する。この土壤は、三野町東川原および三好町昼間の2カ所、標高100~200mの尾根に出現する。A層の形成は薄く、淡色であるが30~50cmの部分に段丘礫層が見られる。B層は50cmで黄褐色を呈し、半角礫に富み、微粒状構造が見られる。アカマツの天然林およびヒサカキ、コシダなどの広葉樹林となっている。

## 2 褐色森林土壌 (黄褐色系)

### (1)千疋2統 (Sen-2)

千疋1統と同じ地域に出現し、台地面を開析する小沢に狭小な範囲に分布し、礫、砂の未固結または半固結堆積物を母材とする土壤である。腐植はやや深くまで侵入するが腐植含量は少なく土色は淡色である。アカマツ、広葉樹の天然林となっているが、生育は中ようである。

### (2)国分寺2統 (Kob-2)

国分寺1統と同じ地域に分布し、谷底斜面の狭小な範囲に出現し、花崗岩を母材とする土壤である。国分寺1統よりもやや湿った環境下にあるため、腐植に汚染された暗色のA層もしくはA-B層が形成される。土壤構造はとくに特徴的なものではなく、一般的に壁状を呈するものが多い。アカマツ、広葉樹の天然林となっているが、生育は良好とはいえない。

### (3)綾上2統 (Aya-2)

綾上1統と同じ地域に分布し、谷沿斜面または谷頭凹形斜面に出現し、花崗岩を母材とする土壤である。湿った環境下で生成された土壤で、腐植の土層への侵入はやや良好で25~30cmのA層が形成される。A層の土壤構造は軟粒状構造は少なく粗粒状構造が優先する。

アカマツ、広葉樹の天然林が多いが、生育は良好である。

### (4)菩提山2統 (Bod-2)

菩提山1統と同じ地域に分布し、谷沿斜面に出現する砂岩、頁岩を母材とする土壤である。土壤の断面層序の発達是比较的良好で崩積性のものが多く、石礫に富み腐植の侵入も多い。

アカマツ、広葉樹林であるが、一部にヒノキの造林地もみられ、その生育は良好である。

### 3 乾性褐色森林土壌

#### (1) 塩江1統 (Sho-1)

中部山地の尾根および山腹凸形斜面に広く分布する和泉層群の砂岩、頁岩を母材とする乾性の土壌である。乾いた環境下にあるため有機物の分解は悪く、比較的厚いA<sub>0</sub>層が堆積し、H層の形成がしばしば見られる。A層は黒褐色を呈し粗粒状構造の発達するものが多いが、アカマツ林下のとくに乾燥したところでは菌糸網層が発達するものもしばしば見られる。

B層には堅果状構造の発達が見られる。

一般に壤土または埴壤土で10 YR系の土色を呈す。アカマツ、落葉広葉樹の天然林またはアカマツ、ヒノキの造林地となっているが、尾根筋の一部を除けば、生育は中ようである。

#### (2) 代官松1統 (Dik-2)

吉野川以南の三波川変成岩類からなる南部山地の土壌は、池田町、井川町、三加茂町に出現し、尾根および山腹凸形斜面に分布する。

三波川変成岩類のうちで、主に緑色片岩から生成された土壌である。A層の形成はやや厚く、腐植に頗る富んでいる。B層も厚く、堅果状、壁状構造の発達が見られる。アカマツの天然林、落葉広葉樹林またはアカマツ、ヒノキの造林地となっており、アカマツの生育はやや良好である。

#### (3) 竜王山1統 (Ryo-1)

代官松統の南側、池田町府甲部、五丸山、井川町段地、三加茂町茂山周辺、五名に出現し、尾根および山腹凸形斜面に分布する。土性は埴質壤土で、土色は明黄褐色を呈し、代官松1統より林地生産力は高い。A層の形成は薄く、B層に壁状構造が見られ、B層下部に石英片岩などの礫が多い。天然のアカマツおよび落葉樹林が多く、土層の深い場合にはヒノキの造林が行なわれている。

### 4 褐色森林土壌

#### 塩江2統 (Sho-2)

塩江1統と同じ地域に分布し、谷沿斜面および山腹凹形斜面に出現する。この土壌は、崩積性のものが多く角礫に富み、腐植の侵入もよく、比較的厚いA層が形成される。この土壌にはヒノキの造林地がかなり多く、その生育も良好である。

#### (2) 代官松2統 (Dik-2)

代官松1統と同じ地域に分布する。この土壌は埴質壤土で、代官松1統より暗色で、匍行

土および崩積土のものが多く、A層は45cmで厚く、腐植の浸透もよく、石礫も多く含んでいる。B層の形成は非常に薄い。アカマツ、落葉広葉樹林の天然林であるが、スギ、ヒノキの造林地もしばしば見られる。

### (3)竜王山2統 (Ryo-2)

竜王山1統と同じ地域に分布し、谷底斜面および山腹斜面に出現する。土壌は埴質壤土で土色は暗褐色を呈する。代官松統よりも林地生産力は高い。A層は比較的厚く、小角礫を含み、腐植の浸透もよく、粒状構造が見られる。B層の形成は厚く、角礫を多く含み、塊状構造がみとめられる。天然のアカマツ林、落葉広葉樹が多いが、スギ、ヒノキの造林地も見られ、その生育は各土壌統の内で特に良好である。

## 5 赤色土壌

### 向麻山統 (Koy)

南部山地北麓の海拔高200~300 mの地域の尾根筋および凸形斜面に小面積であるが点状に出現する。断面層序の発達は悪い。土壌は赤褐色を呈し、一般に堆積は堅密で、下層は結晶片岩の小角礫に富む。アカマツ、落葉広葉樹林の天然林であるが、生育は悪い。

## III.2 台地および低地地域の土壌 (含山地の農耕地)

### 2.1 概説

#### <香川県側>

山地・丘陵地域の土壌は大川・若峽山を主峰とした東西に走る阿讃山脈の地帯で、和泉層群 (和泉砂岩と頁岩の互層) およびこれを母材とする岩錐とからなっている。黄色土壌を主体とし、壤土~埴土質の角礫に富む土壌で傾斜度が大きいので受蝕的である。特に畑地の傾斜方向と地層の傾斜方向が一致する流盤側斜面ではほとんど砂岩単層を母材とした風化土壌であり、有効土層が浅く一層受蝕性が強い。

台地・低地地域の土壌は南部山地から続く段丘と、山地から流れ出る土器川・財田川の扇状地・沖積平野から形成されている。段丘地帯は前記の和泉層群の風化物が運積されてきた洪積層 (三豊累層) と花崗岩残積土を主体とし、一部安山岩の崩積土が含まれる。洪積層安山岩に由来するものは一般にやや粘質で、通気・通水性が不良なものが多いのに対し、花崗岩に由来するものは砂質で通気・通水性が過良のものが多く、全く対照的である。

低地地域は主として水田として利用され、壤質ないし、砂質の灰色低地土が主体である。礫層のあるものは透水性が過良で、老朽化が進んだものが多く、そのため生産性が低い。

#### <徳島県側>

山地の農耕地は阿讃山脈南部の山腹、山麓の傾斜地および山麓階、四国山脈の山腹、山麓

に存在し、阿讃山地の土壤は中生層和泉砂岩・頁岩を母材とし、四国山地のそれは片岩類を母材としている。両者の間には、鉄含量に大差があるため、それがそれぞれの風化土壤にも反映され、中生層の風化土の全鉄含量は数%にすぎないのに対し、片岩のそれは10%前後含有するので、土色の赤味の濃淡において大差が見られ対照的である。いずれも土性はかなり粘質で、礫含量が高い。

大部分が褐色森林土に属するが、一部黒ボク土壤が存在する。

台地および低地地域の土壤は吉野川沿岸の沖積層、吉野川に流入する支流による扇状地、洪積台地等を母材とし、沿岸に帯状に分布する。

台地はもとより低地地域の土壤も一般に排水が良好で、グライ土壤は存在しない。土性は壤質を主とし、台地では粘質もある。

## 2.2 各論

### 褐色森林土壤

四国山脈および阿讃山脈の徳島県側の山地に広く分布し、土色が褐色を呈し角礫を有するおおむね粘質の土壤である。表層の腐植含量は2～5%、下層は腐植を欠くことが多い。下層にち密層の出現することもあるが、一般に理化学性がよい。陰阻な山頂近くまで耕地が存在し、開こんの歴史はきわめて古い（藩政時代の初期以前）と言われているが、石灰施用が行なわれなかったと考えられる当時において土壤反応が中性を保ち、耕地として成り立ったことは注目し値する。母材には中生層（和泉砂岩）と片岩との2種がある。大部分が急傾斜地で労働生産性がごく低い。

#### (1) 神宅統 (Kak)

阿讃山地の山腹、山麓徳島県側に広く分布する土壤で、水成岩を母材とする。土性は粘質、下層の礫含量は含～富。大部分が普通畑として利用され、一部樹園地もある。

#### (2) 入体統 (Nyt)

池田町北部に分布し、水成岩を母材とする土壤である。土性は粘質で、下層土は礫にすこぶる富む。普通畑として利用されている。

#### (3) 神山統 (Kmy)

四国山脈の山腹、山麓に広く分布する土壤で、片岩を母材とする。土性は粘質で、下層は礫にすこぶる富む。大部分が普通畑として利用されているが、一部樹園地もある。

#### (4) 山口統 (Ymg)

三加茂町に存在し、片岩を母材とする。土性はおおむね壤質で、下層土の礫含量は含～富。



大部分が普通畑として利用されている。

#### 赤色土壌

台地および山麓に存在し、下層土の土色が赤色系統 (2.5 YR 6/6) である。面積は狭い。

##### (5) 飯尾統 (Io)

池田町の台地および三野町の山麓に分布し、土性はおおむね強粘質である。表層は腐植を含み、下層は礫を含む。主として普通畑として利用され、一部樹園地もある。生産力は褐色森林土壌に劣る。

#### 黒色土壌

池田町の間開台地および丘陵地に分布し、腐植に富み、火山灰の影響を受けた土壌である。面積は狭い。

##### (6) 鹿畑統 (Kab)

表層は腐植に富み、軽しゅうで団粒構造が発達している。下層は仮比重の大きい黄褐色の鉍質土壌で、腐植をほとんど含まない。土性は壤～粘質で、水田または普通畑として利用されている。日照がよければ、水稻生産力は高い。

#### 黄色土壌

この土壌は主として洪積台地、丘陵地から山麓斜面にかけて出現するものである。山麓緩斜面のものは主に果樹園、台地上のものは主に水田として利用されている。山麓緩斜面の土壌は和泉砂岩、頁岩に由来するもので、土性は比較的粘質のものが多く、主要土色の色は10 Y R で彩度3以上、腐植含量は概して低い。

##### (7) 栗熊統 (Kur)

強粘～粘質で、トラ斑状の遺跡の酸化沈積物があり、礫を含んでいる。仲南町、山本町、池田町、井川町、三好町および三野町に分布し、利用形態は普通畑と果樹園が多く、一部水田もある。腐植含量は低い。

##### (8) 香南統 (Kon)

和泉砂岩、頁岩を母材とする残積性の粘質な土壌であり、強度の表面侵蝕によりA層を欠くものもある。賤田町、琴南町に多く分布がみられ、主に普通畑として利用されている。

##### (9) 讃岐統 (Snk)

残積性の壤質な土壌で母材は主として花崗岩である。礫は存在しても根の伸長を不能ならしめるような礫層ないし基岩は出現しない。高瀬町、財田町に多く分布し、果樹園、普通畑として利用されている。

## (10) 青ノ山統 (Aoy)

山腹、山麓緩傾斜面ないし洪積台地に分布する礫質の土壤で、母材はそのほとんどが和泉砂岩である。琴南町、三好町、三野町に分布し、普通畑を主とし、一部樹園地もあるが、このような土壤は、通気性のよいことが重視される果樹の適地であることが多い。

## (11) 新野統 (Art)

粘質で下層にマンガン結核のみられる土壤である。全層に礫を含む場合が多い。表土は一般に灰褐色を呈し、壤質である。主として水田として利用されており、仲南町に分布が多い。

## (12) 北多久統 (Kit)

作土下の主要土性が強粘質で、マンガン結核のある土壤である。池田町、井川町および三好町の洪積台地上に分布し、水田として利用されているが、保水がよく（3～4日）しかも排水良好で二毛作田として利用せられ、生産力が高い。ただ、下層土のち密度がかなり大きく作土の浅い欠点がある。

**褐色低地土壤**

断面の主要土層が黄褐色を呈する壤質の低地土壤で、扇状地、自然堤防、谷底平野および中洲に存在し、主として水田として利用されている。地下水位の低い排水良好な土壤である。

## (13) 国府統 (Kkf)

主要土性が粘質で、マンガン結核に富む土壤である。三加茂町および三野町に存在し保水がよく、しかも排水良好な乾田で、生産力が高い。

## (14) 三川内統 (Mik)

下層土にマンガン結核を持つ壤質の土壤である。財田町、山本町、仲南町に局所的に、また吉野川沿岸の沖積層に分布し、乾田として利用されている。

**粗粒褐色低地土壤**

この土壤は、断面の主要土層が黄褐色を呈する砂質、または礫層が60cm以内から出現するもので、扇状地および吉野川の中洲に存在し、水田または桑園、竹林として利用されており、排水過良である。

## (15) 長崎統 (Ngs)

全層砂質の土壤でマンガン結核がある。三加茂町の吉野川中洲に存在し、竹林・桑園として利用されており、一部水田もある。

## (16) 八口統 (Ytg)

30～60cm以内から（砂）礫層の出現する土壤である。表土は一般に壤質で、マンガン結核

を含む場合が多い。仲南町、財田町および三加茂町に分布し、乾田として利用せられている。

#### 細粒灰色低地土壤

この土壤は断面の主要土層が灰～灰褐色を呈する粘質ないし強粘質の土層で少なくとも80cm以内より泥炭層・黒泥層・グライ層・腐植質火山灰の層は出現しない。土器川および吉野川流域の扇状地に存在する。

##### (17) 宝田統 (Tkr)

下層土が灰色を呈する粘質の乾田である。三加茂町、三好町および三野町に広く分布し、保水が良好で、排水も不良ではなく生産力が高い。

##### (18) 多々良統 (Ttr)

下層土の基色が灰褐色を呈し、マンガン結核をもつ粘質の土壤である。琴南町に分布が見られる。

#### 灰色低地土壤

この土壤は断面のほぼ全層が灰色ないし灰褐色を呈する壤質の土壤である。谷底平野、扇状地に分布しており、水田として利用されている。

##### (19) 清武統 (Kyt)

下層土の基色が灰色を呈し、マンガン結核をもつ壤質土壤である。大部分が全層壤質であるが、60cm以下に粘質な土層あるいは砂礫層の出現する場合もある。山本町に分布が広く、池田町および三好町にも存在する。

##### (20) 普通寺統 (Znt)

下層土の基色が灰褐色を呈し、マンガン結核を持つ土壤である。土性は大部分が全層壤質であるが、70～80cm以下に粘質な土層あるいは砂礫層の出現する場合もある。財田町、琴南町に分布が見られる。

#### 粗粒灰色低地土壤

この土壤は下層土の土性が砂質であるか、または60cm以内より砂礫層の出現する灰色低地土である。谷底平野、扇状地に分布し水田として利用されている。排水過良で秋落水田が多い。

##### (21) 柏山統 (Kay)

表土がきわめて浅く、30cm以内から(砂)礫層の出現する灰褐色の土壤である。表土は灰褐色を呈し、壤質ないし粘質で、斑鉄・マンガン結核を含む場合が多い。老朽化水田が多く、主に満濃町、琴南町および池田町に分布する。

##### (22) 松本統 (Mtm)

30～60cm以内から（砂）礫層の出現する土壤で、礫層上の土層は灰褐色、壤質で、斑鉄とともにマンガン結核を含む。老朽化水田が多く、仲南町および池田町に分布する。

### (23) 赤池統（Ak）

下層土の基色が灰褐色を呈し、30～60cm以内より砂礫層が出現する土壤である。土性は表層粘質であり、下層は壤質のものが多く、琴南町、財田町に分布する。

## 2.3 台地・低地地域の土地利用

### <香川県側>

台地・低地地域における土地利用は、主として水田・畑・樹園地として利用されている。水田は財田川および土器川沿岸、および谷底平野に分布し、灰色および灰褐色土壤が多い。畑および樹園地は山麓傾斜面に分布が多く、そのほとんどが黄色土壤である。河川沿岸の水田は考朽化した土壤が多く、鉄・マンガン・珪酸・塩基類が流亡し、肥料切れをおこしやすい。とくに下層に（砂）礫層をもつ財田町、仲南町の財田川沿岸、琴南町北部の土器川沿岸の水田土壤はこの傾向が一層強い。また、谷底平野に分布する水田は中粒質土壤が多く、これらの土壤も作土中の鉄・珪酸の含有量が少ない。したがって鉄・珪酸を含有する資材の投入が必要である。

山本町から財田町、仲南町にわたる畑地帯はミカン・柿・タケノコなどが主に栽培されている。これらの畑地帯は洪積層（三豊累層）であり、粘質土壤が多い。高瀬町二宮地帯の畑は茶の作付けが伸びているが、母材が花崗岩であり土壤侵蝕を受けやすい。満濃町の畑はその大部分が洪積土壤であり、粘質なものも多く、柿や茶が栽培されている。満濃池周辺の畑土壤は酸性が強く、石灰や苦土の量が少ない。このような洪積土壤は土壤が固くしめる性質があるので、干ばつを受けやすい。琴南町の畑は甘らん、トマトなど準高冷地的な野菜の作付けが伸びており、一部はクリ栽培など樹園地としての利用もある。この地域は和泉砂岩を母材とし、一部粘質な地域もあるが、大部分は下層土に（砂）礫層をもつものが多い。酸性が強く、またマンガン、亜鉛など微量元素が欠乏しやすく干ばつを受けやすい地域でもある。一般的に本図巾内での畑土壤は酸性が強く、地域によっては干ばつや土壤侵蝕を受けやすいので石灰質肥料など土壤改良資材の利用、水質源の確保、土壤侵蝕防止対策など総合的な改善対策が必要である。

### <徳島県側>

山間の奥地まで広範囲に農耕地（普通畑）が存在するという特徴があるが、最近急速度に過疎化が進み、順次放棄畑の面積が増しつつある。残存農家はタバコを有力な現金収入源と

なしており、このほかの換金作物としては、コンニャク、茶、栗、高冷地ソサイ等がある。柑橘園として利用するには高冷すぎる。

台地・低地地域の七壤は吉野川沿岸に分布し、低地は主として水田（乾田）として台地は水田、普通畑又は樹園地として利用せられている。樹種は桑が多く、カンキツや茶もあるが、下層土の通気性のやや不良なことが土壤的欠陥である。

水田では水稻収量は県内では最高の部類に入るが、それでも450kg/10a程度にしすぎない。原因は土性の割に置換容量の過少なこと、珪酸や各種の塩基に欠乏していることにあると考えられる。ちなみに吉野川ほどの大河川でありながら、水の珪酸含量は10P・P・mに満たないが、これは沿岸の土壤の瘠薄を反映しているものと思われる。なお、本地域には火成岩は存在していない。大部分が乾田であり、気象条件も適しているため、以前は裏作に麦の作付が盛んであったが、現在では冬季休閑が多い。また、本地域は工場地域化の予測は今のところほとんどなく、山間部は過疎化が更に進み、低地部の土地利用は現状のまま当分推移するものと考えられる。

(香川県域山地・丘陵地 農林省林業試験場 四国支場 井上輝一郎)

〃 岩川 雄幸)

( 〃 台地・低地 香川県農業試験場 真鍋 武夫)

〃 大熊 正寛)

(徳島県域山地・丘陵地 徳島県林業試験場 谷渕 正弘)

〃 西又 文喜)

( 〃 台地・低地 徳島県農業試験場 後 藤 恭)

〃 美馬 克美)

## VI 傾 斜 区 分

傾斜区分は40°以上、30°以上40°未満、20°以上30°未満、15°以上20°未満、8°以上15°未満、3°以上8°未満、3°未満の7段階に分級し、これを等高線の間隔による定規を使って区分した。図上で長さおよび巾が2mm以下にある場合は省略してある。

### 香川県域

40°以上の急傾斜地は阿讃山地の山頂に近い中腹に多い。とくに図西部の中蓮寺峰から六地藏越へかけての北斜面、猪ノ鼻峠付近、土讃線讃岐財田駅南東の山腹、久保南方、樫ノ休

場付近、大川山西方の山頂に近い斜面、大川山から東北方に延長する山嘴の北西斜面、同山から南への嶺続きで871m独立標高点から東へ延長する山嘴の北斜面、琴南町吹左古付近、同町測野東北の762.3m三角点のある山嶺の北西斜面などに分布している。

30°以上40°未満の地域はかなり広く、前述の40°以上の急傾斜地に連続した斜面に広がっている。また、竜王山付近にもまとまった分布がある。

20°以上30°未満の地域も30°以上の山地の周辺に広く分布し、とくに集中しているのは、竜王山山麓一帯、若狭峰北麓、財田町東部から仲南町へかけての、阿讃山地の山麓、琴南町の内田南方の山嘴の山麓、同町中通付近の山嘴の山麓などである。また、琴南町の南部では阿讃山地の硬軟互層の差別侵食の結果、前述の山嘴の30°以上の急傾斜面を北西斜面に持つ山嘴の南東斜面が30°未満のやや緩斜面になっている所が少なくない。これは侵食に抵抗の強い砂岩・礫岩などの層面が斜面の傾斜に大きく影響しているためであるが、測野東方山嶺の東南斜面、明神から中熊にかけての山嶺の東南斜面などはその例である。

15°以上20°未満の地域は、あまり広い分布がないが、六地藏越北方山麓、財田町灰倉付近から、山本町神田にかけての丘陵、土讃線塩入駅付近の丘陵、仲南町塩入東北の山麓、図の東北部にある緩川上流付近の猪ノ鼻、牛ノ子堂付、琴南町南部の野田小屋付近の東西に延長する山嘴の南斜面などにある。

8°以上15°未満の地域は北辺の丘陵地帯に散在する。傾山南方および西方、財田中付近、満濃池周辺などはその例であろう。

3°以上8°未満の地域もこれに接した低位丘陵や河岸段丘付近などに分布する。

図西北部の中組付近、南西部の入樋付近、石野から本目に至る財田川南岸の段丘・丘陵、満濃池周辺などにみられる。

3°未満の地域は、財田川本支流の河谷平野と満濃池西方の照井・福良見・小池から久保に至る河川争奪を受ける以前の財田川旧河谷に存在している。

(香川大学教育学部 高桑 糺)

### 徳島県域

3°未満のものは、台地面・低地面・谷底面に、8°未満のものは山脚下部の斜斜面および山稜にあらわれている。山稜部分の平均勾配とは山稜線に沿って小さな起伏を無視したものであり、その広がり幅は地形図に従ったため実際よりも広くあらわれているところがある。

山腹斜面は8°以上、総じて20°以上であり、山腹を刻む開析谷の谷底のみがやや小さく

あらわれている。中央構造線に沿って  $40^\circ$  を越す一連の斜面があらわれている。阿讃山地南斜面では前述のケスタ状山稜に沿って東向き斜面と西向き斜面の非対称があらわれ、総じて東向き斜面は西向き斜面よりも一段階勾配が大である。

結晶片岩山地では東向き斜面、西向き斜面はほぼ対称である。

和泉砂岩山地の大規模な地汙り斜面である井ノ久保、馬場、洞草、西山、栗林、馬瓶、田野々などは滑落崖状急斜面とその基部の緩斜面が区別されるが、他は平均化されてあらわれていない。(寺戸恒夫・古谷尊彦・阿子島 功)

## V 水系・谷密度

水系図は、河幅1.5m以上の常に流水をもつ河川の平面形を空中写真判読によって示したもので、現地調査により判読の基準をもとめ整理した。

谷密度図は、図幅を縦横40等分した各方眼の4辺を切る谷の数の和をもって示してある。

### 香川県域

香川県域の水系はかなり規則性を持っている。一般に北流する支谷は長大で、南流する支谷は短小である。これは阿讃山地が隆起し、北へ傾く増傾斜運動が続いたためであろう。ただし、東部の土器川沿岸においては、この反対に分水嶺をはさんで北流する支谷が短小で南流する支谷が長大な所があるが、これは阿讃山地の地質と関係が深い。この山地は花崗岩類の基盤上に礫岩、砂岩、頁岩の互層が重なるが、その傾斜は南側に傾いている。砂岩や礫岩に比べて頁岩は侵食に対する抵抗が弱いので削剝されやすく、山腹の地表が砂岩や礫層の層面であることが多い。そして互層の露われた面を持つ山腹が急斜面になりがちな為である。図中南部の阿讃山地が早壮年期末期の地形で北部がその山麓台に相当する老年期的な地形であり、地質も南部は上部白亜系に属する和泉層群の礫岩、砂岩、頁岩の互層であるに対し、北部は花崗岩類の丘陵やこれを覆う鮮新～洪積統の堆積物の分布が広いという差異があるにもかかわらず、谷密度の分布にはあまり目立った地域的変化はない。しかし、阿讃山地の分水界をなす山頂付近ではやはり谷の発達は少くなっている。

(香川大学教育学部 高桑 紘)

### 徳島県域

徳島県域の阿讃山地、すなわち阿讃山地南斜面を刻む水系模様は、梨棚型の格子模様を示したの3成分にわけられる。

1. 前述の東へ開いた向斜構造の走向方向に沿って形成されたいわゆる丸木舟型の山稜に沿った東へ凹の孤状をえがく適従谷。単一の水系が一連の孤をえがくととはかぎらず、各支流の孤状成分がよく一致する。

2・3. 孤状を示すケスタ山稜をきざみ、上述の谷へ直角に交わる必従谷および逆従谷であり、谷2・3は総じて谷1よりも短い。

また、中央構造線に沿う断層崖に発し、これを刻む谷は一様な平行模様を示す。この河川は断層崖下に扇状地・崖錐をつくり伏流するため谷底平野部分で一線をなして消える。

結晶片岩山地を刻む河川の水系模様は、南北・東西2方向に直線成分の卓越する格子模様であり、南北成分のものが長く、谷は深い。山腹斜面を刻む浅い低次の谷はこれらの谷に鋭角で交わる。

水系密度は、和泉砂岩山地、結晶片岩山地いづれも大差なく2～7であるところが多い。8以上のものがあらわれる頻度は和泉砂岩山地に多い。阿讃山地のケスタ山稜の非対称谷の両側で、谷密度に差が認められる。野呂内谷川上流域は均一な岩石を刻むためか谷の両側の谷密度に差はない。

(寺戸恒夫・古谷尊彦・阿子島 功)

## VI. 防 災

### 香川県域

この地域には、大規模な地沁りはないが、規模の小さい地沁りや山崩れが、阿讃山地北斜面や台地に数多く存在する。そのうち、主要なものの位置と標高、規模と崩壊の方向は次表の通りである。地点番号は防災図中に示してある。



地じりと山崩れの表

番 号	位 置	標高 (m)	面積 (ha)	崩 壊 方 向
1	琴南町造田東方	260	1	南
2	" 下木戸南西	280	0.5	北
3	" 平川沿岸	500	1.5	北
4	" 野口川沿岸	360	0.5	北西
5	" 犬馬場南西	360	0.5	東
6	" 前の川沿岸	420	0.2	東
7	" 半坂	400	0.5	南東
8	" 下福家	600	0.5	北
9	" 下福家南	580	0.0	南東
10	" 八峰川沿岸	500	0.5	西
11	" "	580	1.0	北東
12	満濃町江畑一帯			
13	仲南町脇町北西	540	0.5	北
14	" 塩入西方	400	4.0	(数か所)
15	" 本目北西	160	0.5	南
16	" 多治川沿岸	300~400	2.0	(数か所)
17	財田町荒戸南西	160	0.1	北西
18	" 長野川沿岸	420	5.0	北西
19	" 入樋川沿岸	120	0.3	北西
20	" 戸川南西	400	5.0	北西
21	" 別所南西	0	0.0	東
22	" 本条川沿岸	260	5.2	北西
23	" 谷道川沿岸	500	1.5	北西

## 徳島県域

**地すべり防止指定地域** 図幅のうち徳島県域にふくまれる地すべり防止指定地域は、土木部・農林水産部管轄のもの計50余箇所をかぞえる。地形分類図に示した崩壊性地すべり地は、滑落崖・地すべり緩斜面・末端隆起などのそろった明瞭な特徴をそなえるものに限ってあるが、ここに示された防止指定地域はこれらを含んで広い。すなわち、これらの地域は、前記の地質・地形条件によって、基岩の破碎、また過去の地すべり・崩壊によって生産された、基岩をおおう厚い岩層の存在によって、地すべり発生の条件を備えている“潜在的地すべり地”と考えられ、多くの人家・耕地などがある社会的・経済的にも、明らかに地すべり災害防止に対処される必要のある地域である。

**砂防指定地** 砂防法によるもので、昭和37年12月末までに指定されたものである。

**河川堤防の状況** 洪水時に危険の予想される箇所は、徳島県水防計画書(昭和46年)による。

現在、改修の必要とされる箇所とは、四国地方建設局資料(昭和46年度末計画)により計画高水位に満たない堤防の部分を示した。

**冠水地域** 現地での聞きとりにより、季節的な洪水時に冠水する部分および過去の洪水時に冠水した部分を含めて図示した。

**主な治山構造物** 昭和47年度末現在における治山堰堤の位置を示した。

(阿南工専 寺戸 恒夫)

(京大防災研 古谷 尊彦)

(徳島大学 阿子島 功)

## Ⅶ. 標高区分

図巾内の最高峰は東部にある大川山(海拔1042.9m)で、香川、徳島の県界が通る分水界の山嶺は、東へは下福家西方の841.0m三角点、滝の奥西方の733.5m三角点、同東方の808m独立標高点のある山頂などが連なっている。大川山から西へは大平北方の979m独立標高点、樫ノ休場の851m独立標高点、竜久保西北西の887.3mの三角点、猪ノ鼻峠東方の718.3m三角点、若狭峰の786.8m三角点、六地藏越西南の642.7m三角点などの山頂が連なる。

この連峰の南側は徳島県で吉野川支流の流域に入るが、北側の山腹には800~1000mの地域が大川山を中心として東西に狭長に分布し、その北側に600m~800mおよび400m~600mの山腹が図巾を横断して帯状に東西に延長する。

200m～400mの地域はかなり広く、東端に近い下柏原、猪の鼻付近からしだいに北と西へ向って低下していく。ここは山麓台の性質を持つ丘陵、山嘴が多い。満濃池周辺から財田町をへて山本町へかけてはこの地形面の局度が100m～200mと低くなる。この地形面上に竜王山(421.6m)傾山(286.6m)などの低い山や丘陵が残丘状に所々にそびえ立っているのである。

香川県域では高度400m以下の丘陵性の地域がとくに広い面積率を占めるのに対し、徳島県域の高度400m以下の地域は吉野川河谷底に沿って分布するにすぎない。総じて山がちである。図幅内の結晶片岩山地、和泉砂岩山地ともに800m以上の山陵を連ねている。阿讃山地を刻む開析谷は、結晶片岩山地を刻むものに比べてやや長く、これに沿って高度の低い地域が山地内に入り込んでいる。高度400m以上の各階級についてみれば、それぞれの占める面積率は総じて等しく、山腹斜面の勾配は概して一様、直線的断面をもつことを示している。

吉野川平野の図幅内の高度は60～100mである。

(香川県域、高桑 紀)

(徳島県域、寺戸恒夫・古谷尊彦・阿子島 功)

1972年3月 印刷発行

阿讃山地開発地域  
土地分類基本調査

## 池 田

編集発行

香川県企画部総合開発班  
香川県高松市番町四丁目1番10号  
徳島県農林水産部農林企画課  
徳島市万代町1の1

印刷

(説明) 松下印刷  
徳島市南田宮2丁目107  
(地図)内外地図株式会社  
東京都千代田区神田小川町3-22